日吉台新聞
HIYOSHIDAI
平成２９年１２月１日

発　行
日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会
発行責任者
林　聖太郎
編集責任者
村澤　真保呂

題字は
4丁目１１－２
梶谷　清苑さん

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

日吉台支所を坂本支所へ統合案

支所再編、集約素案提示

市民センター、将来地元管理か

32年度実施へ

大津市は、20日開いた市自治連合会臨時会で、市民センターあり方検討のうち、支所再編、集約計画の素案を発表した。素案によると、現在36ヵ所ある支所を32年度中に10支所に統合集約化する。臨時会では再編する支所名を示し説明、日吉台支所は坂本支所へ統合されることになっている。

同市は、平成26年度から市民センターのあり方検討に入り、この日市民センターの支所機能、公民館機能、地域自治機能、防災機能の再編イメージの具体策の素案を示した。

支所機能については、集約化することを念頭に現在の支所のキャパシティ、交通アクセス、支所業務量、地域バランスなどから和邇、堅田、坂本、平野、膳所、晴嵐、瀬田の7支所を広域支所として残す支所に選定、車などで広域支所まで遠い葛川、大石の2支所を地域支所として残す。また、逢坂は支所の配置バランス、業務量から存続とした。

支所の再編、集約化のほか36学区にある市民センターは、コミュニティセンター化、地域自治機能、公民館機能、防災機能として存続させる。コミュニティセンターは、貸館、地域活動支援、防災備品管理を含む施設管理の業務を行い、32年度から3年間は、市職員のセンター長を配置、地域の自主運営に向けた地域人材育成、貸館業務、施設管理を担当させる。3年経過後、3機能が残る市民センターは地域の自主運営に移行、その時点で市の職員は姿を消すことになっている。

素案では、3機能のうち地域自治機能については、地域全住民が参加する新たな地域自治組織の設立を求めている。新組織設立のため市は30年度から導入期として設立支援交付金や運営支援交付金制度を設け、新組織設立をうながし、35年度から一括交付金制度を導入、新自治組織の設立を全学区に拡大させる。

市は、29年度中に素案を成案化、30年度から各学区で説明会を開催するが、各学区自治連ではこの計画案に反発の動きがでている。

4車線化特別委、スタート

騒音、振動対策など協議

湖西道路4車線化にともなう騒音問題などの対策を協議する学区自治連の特別委員会が10月30日、初委員会を開催、対策に向け協議をスタートさせた。

委員会名を第2次湖西道路対策委員会と決め、委員長に北海彰・1丁目南自治会長、事務局長に市川泰伸・4丁目東自治会長を選出した。委員は計13人、学区自治連公募委員2人が含まれる。昭和55年、湖西道路計画当時、日吉台で湖西道路対策委員会を組織、当時の事業者、日本道路公団と騒音対策などについて協議しており、対策に継続性をもたせる意味で、第2次とした。

坂本幼稚園へ送迎バス運行

こども園開設法人公募始まる

認定こども園開設に伴い、日吉台幼稚園が坂本幼稚園に統合することで、日吉台幼稚園児を坂本幼稚園に送迎する通園バスの運行を決め、日市は、10月31日開催した市幼児政策課と同幼稚園保護者、未就園児保護者説明会で明らかにした。

説明会には山内和夫・幼児政策課課長が出席、説明。スケジュールによると、公募による認定こども園開設法人が来春決まったら、日吉台幼稚園は、平成30年5月31日付で廃園。同幼稚園園舎は、設置法人に譲渡されこども園開設に向け園舎改築工事に入るので30年4月から日吉台幼稚園児は坂本幼稚園に通うことになる。その後、同年6月、日吉台幼稚園は坂本幼稚園に統合、日吉台幼稚園児は、坂本幼稚園児となる。

坂本幼稚園に通う通園方法について同課長は、「29年春、日吉台幼稚園は3年保育を実施している。この3歳児が卒園する2年間は、市が坂本幼稚園に向け通園バスを運行する」と表明。その後の運行については、さらにその北にある雄琴幼稚園との再編計画とのからみのなかで検討する、とした。通園バスの運行については、日吉台住宅地を巡回、園児を乗降させるとした。

公募に名乗りを挙げる法人がなかった時には、公募条件を変更して再度公募する方針。その場合は、31年春の開園も遅れるが、日吉台幼稚園の扱いについて市は、日吉台幼稚園児を坂本幼稚園に送迎する通園バスの運行を決め、日吉台幼稚園児を坂本幼稚園に統合することで、日吉台幼稚園児を坂本幼稚園に送迎する通園バスの運行を決め、日吉台幼稚園で10月31日開催した市幼児政策課と同幼稚園保護者、未就園児保護者説明会で明らかにした。

説明会には山内和夫・幼児政策課課長が出席、説明。スケジュールによると、公募による認定こども園開設法人が来春決まったら、日吉台幼稚園は、平成30年5月31日付で廃園。同幼稚園園舎は、設置法人に譲渡されこども園開設に向け園舎改築工事に入るので30年4月から日吉台幼稚園児は坂本幼稚園に通うことになる。その後、同年6月、日吉台幼稚園は坂本幼稚園に統合、日吉台幼稚園児は、坂本幼稚園児となる。

坂本幼稚園に通う通園方法について同課長は、「29年春、日吉台幼稚園は3年保育を実施している。この3歳児が卒園する2年間は、市が坂本幼稚園に向け通園バスを運行する」と表明。その後の運行については、さらにその北にある雄琴幼稚園との再編計画とのからみのなかで検討する、とした。通園バスの運行については、日吉台住宅地を巡回、園児を乗降させるとした。

公募に名乗りを挙げる法人がなかった時には、公募条件を変更して再度公募する方針。その場合は、31年春の開園も遅れるが、日吉台幼稚園の扱いについて市は、坂本幼稚園と日吉台幼稚園に統合することで、日吉台幼稚園児を坂本幼稚園に送迎する通園バスの運行を決め、日吉台幼稚園で10月31日開催した市幼児政策課と同幼稚園保護者、未就園児保護者説明会で明らかにした。

学区防災訓練実施

地震などの災害に備え、11月12日午前、日吉台小学校で、学区住民約400人が参加して学区防災訓練が行われた。災害時における住民の安否確認と安全な場所への避難誘導を図るのを狙いに実施、今回初めて他の人を救助する倒壊家屋救助訓練が加わった。

午前8時半、訓練開始。8丁住民らは、各丁が指定した公園など安全な場所に避難、地域の防災担当者が安否確認後、トランシーバーで本部に報告したあと、住民らを学区自主防災訓練会場の日吉台小へ誘導した。

訓練の主会場の日吉台小では、非難してきた参加者らが体育館に集合。防災講演を聞いたあと、3班に分かれ消火器体験訓練、AEDを使った救命救急訓練、倒壊家屋救助訓練に参加。従前の自らの生命を守る訓練に加え今回から他人の生命も守る倒壊家屋救助訓練や豚汁炊き出し訓練も加わり訓練内容も充実。久しぶりに会場に起震車も登場、阪神大震災クラスの巨大地震の揺れを体験した。訓練後、市中消防西分署の杉原武則署長が「自助、共助、公助に加え、災害に対し、女性の協力が必要な場合がある。女性の力を加えた防災体制を構築していただきたい」と講評した。

坂本幼稚園で合同保育

開設法人未定のケース

31年春、日吉台幼稚園の代替として開設予定の認定こども園の開設法人を募る大津市の公募が10月31日付で始まった。地元日吉台学区などでは開設にあたって、民間の認定こども園だが運営には市の関与も残し、ゼロ歳児から保育可能な幼保連携型とするよう求めていた。公募要領では、地元要望を受けた形で「公私連携幼保連携型認定こども園」とすることを明記、施設名も「日吉台」という地名使用することを記載した。

公募要領では、このほか現日吉台幼稚園園舎は設置法人に譲渡、敷地は賃貸借とした。公募申込み受付期間は12月22日まで。市の応募法人ヒアリングは平成30年1月下旬、選定結果公表は2月上旬ごろの予定。設置法人の応募があり、市の選定で開設法人が決まれば30年夏ごろから設置法人による園舎改築工事が行われ31年4月、開園する。

いについて市は、坂本幼稚園で坂本幼稚園と日吉台幼稚園の園児を一緒に保育する合同保育となる、と説明、その場合の通園バスについて「（委託したバス）を遊ばしておく訳にもいかないので有効活用する」と話した。

こども園で要望書

日吉台の教育を語る会（中野義勝委員長）と学区自治連合会（野々口義信会長）は10月30日、市役所で越直美市長と面会。認定こども園開設に伴う4項目の地元要望を提出した＝写真。

要望は「他教育施設との連携」▽「地域団体との連携」「情報公開」「運営上の諸問題」――の4項目。特に認定こども園の工事計画、施設概要、保育、教育方針、送迎自動車の交通、騒音対策については、計画段階での地元説明会の開催を求めている。

要望に越市長は「みなさんの意向を開設法人に伝えたい」と語った。

訂正　11月号、合同保育で比叡山幼稚園とあるのは、雄琴幼稚園の誤りでした。

第2回日吉台コンサート

１２月２４日、市民センターで開催

文化の香り高い日吉台のまちめざして「第２回日吉台コンサート」（同コンサート実行委主催、学区まちづくり協議会後援）がクリスマスイブの12月24日、日吉台市民センター大会議室で開かれる。

今年６月、日吉台のクラシック音楽愛好家らが実行委を組織、日吉台在住で大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターとして活躍したバイオリニスト、岡田英治さんが出演する日吉台クラシックコンサートを開催。好評を得たので２回目のコンサート開催の運びとなった。

第２回コンサートは、「フルートとハープが奏でる夢の世界へようこそ」を銘打ち、現在、京都市交響楽団で活躍するハープ奏者、松村衣里さんとフルート奏者、市川智子さんのコンサート。二人は、デュオを組み、全国的にコンサート活動を展開している。

午後２時開場、同２時半開演。入場料５００円。小学生以下は無料だが入場整理券が必要。入場券は、日吉台商店街にある地域交流の家「あじさいくらぶ」の協力を受け販売する。問い合わせは岡田英治さん（０９０・７３５９・２８１２）。

文化の香高く

芸術活動を一堂に日吉台文化祭

師走にはコンサート開催相次ぐ

文化、芸術活動を一堂に紹介する第33回日吉台学区文化祭（学区文化祭実行委、日吉台公民館主催）が10月27日から29日までの３日間、日吉台市民センターで開かれた。台風の影響で屋外イベントや出店が取りやめとなり変則的な文化祭となったが同センター会議室に設けられた展示会場には、生け花、絵画、写真、陶芸、俳画がなどのコーナーが設けられ、住民らが丹精込めた作品がずらり。最終日の29日は、大会議室で発表会があり、民謡、尺八、器楽演奏、日本舞踊など日ごろの練習の成果を披露、訪れた人らは、芸術の秋の一日を楽しんだ。

日吉台市民センターで開催された今年の文化祭

日吉台合唱団（横山裕実子団長、30人）恒例の第35回、日吉台合唱団クリスマスコンサートが12月16日、日吉台市民センター大会議室で開かれる。

コンサートは、午後１時半開場、午後２時開演。入場無料。曽田俊和さん指揮、小林千夏さんのピアノ演奏で、「ふるさと」「Top Of The World」など15曲を合唱する。

日吉台幼稚園に忍者

子どもたちの願い実現、大よろこび

幼稚園に忍者が出現―。日吉台幼稚園の遊戯室で10月25日、忍者ショーがあり、こどもたちを喜ばせた＝写真。

同幼稚園では、１学期から遊びの中で忍者ごっこがはじまり、日吉丸と名乗る謎の忍者から巻物が届いたり、おやつが届いたりしていた。秋の運動会で忍者のリズムをするころには、子どもたちの忍者熱は最高潮。保護者の一人が「子どもたちを本物の忍者に会えるようにしてやろう」と知り合いの殺陣師に相談、京都太秦映画村から本物のスタントマン３人が忍者に扮して遊びに来てくれることになった。

この日は、近隣の坂本幼稚園からも園児がかけつけ、53人の子どもたちが忍者ショーを楽しんだ。間近で見るバック転や殺陣に子ども達は大興奮。あこがれの忍者に会えた喜びに目をキラキラと輝かせ、最後は忍者と一緒に記念撮影。大好きな忍者が山に帰る時間になると、子どもたちは、「楽しかったー!また来てねー!」と名残惜しそうに小さな手を何度も何度も振っていた。

個人情報保護方針実施を要請

各丁、各種団体へ自治連合会

個人情報保護法改正、施行に伴い「学区個人情報保護方針（プライバシーポリシー）」を定め、試行した日吉台学区自治連合会は、学区内８丁自治会と各種団体に対し、学区のプライバシーポリシーを準用採用し、各丁自治会会則、各種団体会則に「個人情報保護の取り扱い」を追加するよう要請した。

平成27年９月改正、同29年５月に施行された個人情報保護法では、一人でも名簿を取り扱う事業者は同法の対象になる。この事業者とは自治会、同窓会、ＰＴＡ、非営利組織も含まれ個人情報を取得する場合には、本人に利用目的を明示するほか、第三者に提供する場合にも本人の同意が必要となる。

このため、学区自治連では、個人情報を収集するさいの利用目的、利用範囲、提供、廃棄などのルールを定めた学区個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定め、11月１日付で試行している。保護法改正で自治会や各種団体でも会員名簿作成など名簿を集めるさい、さまざまな煩雑な作業が必要になるが、個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定め、公表していることで、法でいう利用目的や管理方法などいちいち本人に通知することなく法をクリアできるという。

学区自治連では、各丁自治会、各種団体に対し煩雑な方法をさけ従来どおりの活動を続けてもらうため学区自治連個人情報保護方針の準用を呼び掛けたもの。学区自治連では、学区個人情報保護方針に基づく文書であることを示すロゴマークを作成、ホームページに掲載しており、今後配布や発行する取り扱い文書にこのロゴを貼り付けてもらうことにしている。